

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) Seita Takimoto
所属 (School) 生命環境科学域 獣医学類
学年 (Grade) 5 年

留学先 (Name of overseas institution)
タイ王国 Thammasat 大学
留学期間 (study abroad period)
2018/9/2~2018/9/29

記入日 (Date) 2018/10/10

留学レポート Study Abroad Report

今回、私はつばさ基金の補助金を受け、タイ王国のタマサート大学ランシットキャンパスへ 9/2-9/29 の 1 か月間研究留学へ行かせていただきました。その間、タイで販売されている食材が持つ食中毒リスクの調査をテーマとし、実験を行っていました。私自身、海外への渡航は初めてではありませんでしたが、単身で長期間滞在するといった経験はしたことがなく、渡航前は期待の裏に不安の感情が常にありました。何より、現地の方とコミュニケーションがとれるかどうか心配でした。タイでの公用語はタイ語ですが、英語を話せる方が多いと聞いていたので、英語でのコミュニケーションを試みていました。幸いにして、私の所属する獣医国際防疫学教室では留学生の数が多く大半がその数を占めていますので、渡航前に、彼らに協力していただき、少し英語を話せるようにしてから留学に臨みました。そのため、あまり苦労することなく会話をすることができました。渡航後すぐは現地の文化に戸惑いを感じていましたが、1 週間ほどすると慣れ、異国の地や文化を楽しみながら研究活動を行うことができました。

タイという国について少しお話します。私が滞在していた場所は首都バンコクの北に隣接するパチュムタニ県というところ。主要な観光地のバンコク市内ではないので邦人を見かけることはほとんどなく、異国に滞在しているという実感を強く覚えました。しかし、タイ国内では日本の文化がとても人気が、その影響をいたるところで感じました。例えば、日本の寿司店、しゃぶしゃぶ店などが多く見られました。その味は日本のものに近いものだったので、日本の味が恋しくなった時はよく食べていました。タイでの食文化についても少し触れましょう。タイでは辛いものや甘いもの、酸っぱいものが好まれてよく食べられています。私の渡航前の懸念の一つに食文化の違いがあり、辛いものがあまり食べられないので食べるものがあるか不安でした。結果としては、食べているうちに体が慣れてきて、帰国後の今では好んで辛いタイフードを食すほどになりました。このことから、まずは経験してみ、対応することの重要性を学びました。もちろん、計画や対策を練ることは大切ですが、それ以上に不測の事態に臨機応変に対処できる能力が異国の地では求められているのだと感じました。例えば、タイでは公共交通機関が日本ほど発達しておらず、移動にはタクシーやバイクに乗る必要がありました。英語で行き先を伝えることは予測していましたが、英語が伝わらない場合のことを予測していませんでした。加えて、バイクの場合は運転手がタイ語すら読めない場合もありました。このような時、最初は焦りましたが、相手も同じ人間なので身振り手振りで会話することで乗り切りました。道に迷った時も、同様に人に尋ねることで解決することが多かった。ただ、気を付けなければならないのは人を選ぶことです。私の滞在先の治安は良い方ではありませんでしたが、日本ほど安全だとは言えない所だと思います。当然危険な人も見ましたし、実際に事件に巻き込まれそうになったこともあり。勘に頼るしかありませんでしたが、なるべく危険そうな人や場所には近づかないようにしていました。そのおかげで無事に帰国することができました。ただでさえ、勝手を知らない外国人は狙われやすいので日本と同様の認識で行動するとトラブルに巻き込まれる恐れがあるという危機感を持って行動するようにしていました。臨機応変に行動することはこれらの点からも重要であることを改めて認識しました。

また、私が感銘を受けた文化は仏教の精神が国民に根付いているということです。そのため、困っている人がいたら助け合うという行為が当然のように行われていました。そのため、タイの人々は私に対してもとても親切でした。知り合いも日本人も周りにいない生活をあまり苦に感じなかったのは多くのタイ人が親切にしてくれたおかげです。私はこの経験のおかげでますますタイが好きになり、次回は旅行で訪れたいと考えています。

私が通っていたタマサート大学ランシットキャンパスは首都バンコクの北に隣接するパチュムタニ県というところにあります。この大学はタイでは 2 番目に古い大学で、タイ国内のみならず世界的に有名な大学です。毎年 8000 人もの学部生が卒業し、キャンパスを 4 つも持つ大きな大学です。ランシットキャンパスも校内はかなり広く、移動にはバスを使わなければなりません。自然が豊かで、放課後には部活動やサークル活動がいたるところで行われていて、スクールドラマの中にいるような気分でした。そのようなキャンパス

私が今回の研究留学で最も強く感じたことは、自分一人では生きていけないということです。1ヶ月という★
短い期間ではありますが、数え切れないほど多くの方のお世話になりました。私一人では無事に終えることは★
できなかったと思っています。留学前までは、この年にもなって人に頼ることは恥ずかしいことだと思ってい★
ました。今では、時には頼ることも必要であるという認識に改めました。また、同様に人に頼ることで、新し★
い考え方や発想が生まれ、実験だけでなく異国での生活をより発展的なものにすることができました。以上の★
ことを踏まえ、これから留学へ行かれる皆さんへの私からのアドバイスは2点です。1.時には人を頼ること。★
2.自分の考えに固執し過ぎず、臨機応変に対応すること。最低でもこの二つさえ意識すれば、留学は貴方にと★
って非常に有意義なものになると考えています。★

A photograph of a laboratory or pharmacy setting. A person in a blue shirt is seated at a counter, working with various bottles and containers. The room has a tiled floor, fluorescent lighting, and shelves stocked with supplies. A large window is visible in the background.

A large, ornate, multi-tiered pagoda with intricate carvings and a person standing in front of it for scale. The pagoda is made of light-colored stone or plaster, featuring numerous small, dark, conical rooflets on each tier. The base is decorated with panels of colorful murals. A person in a blue shirt and brown pants stands in the foreground on a paved plaza, providing a sense of scale. The sky is blue with scattered white clouds.

A group of students and a teacher are in a school hallway. On the left, a group of five female students are standing and talking. They are wearing various casual clothes like t-shirts, skirts, and a hijab. In the center, another student in a blue shirt and black pants is walking towards them. To the right, a male teacher in a dark blue sweater and khaki pants is standing and looking towards the group. The hallway has a tiled floor with a large orange diamond-shaped pattern in the center. The walls are light-colored, and there are posters on the left wall. The ceiling has fluorescent lights.

タマサート大学の研究室でお世話になった学生、先生方